

古高取通信

No.40

令和7年1月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1. 活動の拠点を創る
2. 古高取の知識を深める
3. 古高取の魅力を伝える
4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



初代直方藩主黒田高政の供養塔(雲心寺)

目次

お知らせ	なんでも掲示板	焼物部会	学習部会
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
10	8	4	2

明けましておめでとうございます
本年もよろしく願いいたします

昨年末、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。被団協の活動への評価とともに、唯一の被爆国である日本は先頭に立って、核兵器廃絶への道を走ってほしいとの期待と、世界からのメッセー

ジを感じます。
本棚を整理していると、令和2年の円徳寺「月めぐり法語花蓮陀」が出てきました。12月の月めぐりに『石は小さくても一つでよい、水に投ずれば同心の波を生ず、御恩報謝は一人から』という法語が載っていました。

本会では、設立当初から運動方針の一つに、「活動の拠点を創る」を課題に掲げてきました。その中心課題は「直方歴史資料館」建設の促進であり、歴史関係4団体との協議や、直方市への提言など活動が続けてきましたが、一歩も進んでいない状況にあります。

「石は小さくても一つでよい」私たちに出来ることから、活動を見直していきたいと思っています。

隅田知明

学習部会(2024年7月~12月)

令和6年度の高取焼基礎研修講座は、「歴史こぼれ話」という標題で三回実施しました。

一回ごとに、興味を引いた話でまとめることとし、月一回、日曜日の午前十時三十分~十二時を充て、会場は古町北区公民館で行いました。

【第一回】

△2024年9月8日(日)△

テーマ…菓子の話

【第二回】

△2024年10月20日(日)△

テーマ…地名の話

【第三回】

△2024年11月10日(日)△

テーマ…料理の話

第一回の「菓子の話」では、資料として、「江戸時代の食文化」・「年表江戸時代の食と社会」を配布しました。

江戸時代は、約三百年徳川家の統治によってであった。

上方が食文化の中心だった前期(一六〇三~八一)。社会が落ちついて庶民の食生活も向上した中期(一六八八~一七三六)。そして東都江戸の料理が発展し、いわゆる「日本料理」が完成した後期となっていく。(一七五一~一八六七)

その中から「菓子の話」は南蛮菓子の原料の「鶏卵と砂糖」についてまとめてみた。

菓子とは菓子(作った菓子)・果子(果実類でくだものミカン・カキ・ナシ等)である。

人間の味覚には、塩味・甘味・酸味・苦味・旨味、これを調味料でいうと、「さしすせそ」と五十音のサ行があたる。すなわち、さ||砂糖・し||塩・す||酢・せ||醤油・そ||味噌である。

鶏卵について福岡藩は大坂・江戸へ卵を市場に出していた。生卵は冬場は二ヶ月程度・夏場は常温で三週間保存が可能でしたから、藩は行政機関として『鶏卵仕組』という役所をつくり、領内で特に養鶏が盛んとなった地は、宗像・古賀・粕屋郡地区であった。船で江戸や大坂まで出荷できる産物(筑前卵)だった。他に統前米がある。卵を産まなくなった鳥は鶏肉として食べられた。今でも宗像地区の「すき焼き」の肉はとり肉が標準肉となっている。

また、江戸時代に朝鮮通信使が相島に立ち寄った際には、福岡藩より毎日二千個の卵と三百羽の鶏が提供された。

福岡の郷土料理として「水炊き」、「がめ煮」、「味噌飯(かやく飯)・

「鳥もつ鍋」等が広く庶民の味となっている。

砂糖については、八代將軍吉宗が西国・四国の各藩に対して砂糖を作るように指示し種苗を渡している。

鎖国後、オランダから長崎出島で約三百五十万斤に制限されていたが、十八世紀のはじめの正徳年間(一七一1~一七一五)には四百三十万斤に改正された(二五八〇七)。白砂糖を三盆・上白・太白と称していた。江戸は白砂糖は唐三盆として薬種屋で売っている。幕末和製(和三盆)が生まれている。

第二回の「地名の話」では、直

方市中心を『筑前統風土記』(以下統風土記)と『筑前国統風土記付録』(以下付録)もって、その百年後の変化を求めてみた。『統風土記』は貝原益軒が元禄元(一六八八)から元禄十六(一七〇三)年に地誌として藩主に献上したもので、『付録』は天明四(一七八四)年に藩命をうけて加藤一純(廣山)が鷹取周成等の助録を受けて編纂したもので、寺社等に百八十枚の挿絵か特色のもので村名を記し、産土神、社寺・名所・陣跡・山川・原野等を記録している。

これを使用して、鞍手郡の全域

の地誌を把握された。

第三回は、「料理の話」として、

小豆の餡を中心として、寒天のつくり方から、そして餡と寒天が合体して練羊羹(ねりようかん)になったことを話題の中心とした。

文化初年(一八〇四~一八一四)江戸深川佐賀町に船橋屋織江が菓子屋を開き練羊羹を作った。それには万治年間(一六五八~六一)に、上方では寒天の製法が発見されていた。

それ以前に練物として、蒲鉾など魚のすり身を原料とする練製品が使われていた。上方では寒天や葛を使って固める菓子をいつている。これを普通「流し物」と呼んでいるもので、槽は舟とも書き、固める木箱をいう。縦六寸、幅一尺二寸につくり、この中に一寸の厚さで満たし固めたものを一槽、それを幅一寸、長さ六寸に切りわけたものが一棹と称している。細長く切りわけける菓子を「倅物」と呼んでいる。

以上が、本年度の研修講座である。まとをしぼって話を進めた。参加された皆様、ありがとうございました。

副島邦弘

花びら餅の思い出

古高取を伝える会会員 吉野 繁則

そろそろ1月になると茶道を志す者は、初釜の準備で忙しい中、主菓子には例年通りの定番の「花びら餅」が一番の楽しみです。私が初めて花びら餅をいただいたのは40年前に茶道を始めて、まもない頃の初釜でした。

白の半円で真ん中あたりが、薄いピンク色がついている。半円の奥の方には横から僅か牛蒡がはみ出ている。見るからに美味しそうです。「牛蒡！と少し違和を感じて」饅頭とは違う形容に見とれてしまいました。同席の先輩諸氏に指導されるままに、懐紙に載せて「花びら餅」をいただき初めて見た形容にワクワクしながら口に運んだ良き思い出があります。柔らかな餅に仕込まれた味噌に牛蒡の甘美味を楽しみました。茶会雰囲気

に流されるままに濃茶を覚束ない手付きで頂いて既に40年です。

「花びら餅」は平安時代、宮中の幼児の歯固めにしたそうですが、牛蒡は宮中で天皇が自ら牛蒡を植え大切に育てられて作られた物と

聞きました。餅のピンク色は紅色の味噌餡の色がうつすらと求肥に透かされて見えていたものであり、牛蒡は優しく蜜付けされた美味し

いものでした。それからというもの、毎年いただくのが楽しみの一つであります。「菓子の話」で古い思い出を語りました。

副島講師のお話は、いつも充実感を得て直方から飯塚に帰宅する。さて今回は、和菓子の源流からのお話でした。菓子の歴史を学んで、お菓子の成長も人と共に発展し歴史を刻んできたのだとお菓子に感謝し愛おしさを感じています。今日は、どんなお菓子を食べようかな？



焼物部会（2024年7月～12月）

令和6年の焼物教室は、後期6つの小学校と3つの地域対象団体で実施しました。これで、小学6年生対象焼物教室は11校全てで終了しました。ボランティアでお手伝いいただきました皆様、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

- 「日本語教室おむすび」
△2024年8月27日(火)△
- 「新入小学校」
△2024年8月30日(金)△
- 「鞍手幼稚園」
△2024年9月2日(月)△
- 「直方西小学校」
△2024年9月6日(金)△
- 「植木小学校」
△2024年9月12日(木)△
- 「直方北小学校」
△2024年10月1日(火)△
- 「感田小学校」
△2024年10月25日(金)△
- 「親子焼物教室」
△2024年11月16日(土)△
- 「上頓野小学校」
△2024年11月22日(金)△



焼物教室を振り返って

柴田 ムツ子

市内11校の6年生に高取焼の抹茶碗づくりを指導して16年が経過しました。一昨年は、その茶碗がなんと、10,000個に達成。継続は力なりを実感したところです。

粘土をこねる。高台を作る、茶碗の大きさを考えながら、粘土をさらに上に、横に整える。粘土に思いを込め、一生懸命になる。その思いは粘土に伝わり、粘土が元気になりますとの説明に、真剣な顔が、いつのまにか笑顔に、そして粘土は茶碗らしい形になっています。マイ茶碗の一步が完成ものをつくる手ごたえを感じた瞬間です。

私たちは、茶碗づくりの基礎を説明します。基礎が理解できれば、あとは、個性です。宅間窯跡、内ヶ磯窯跡からの出土品も、個性的なマイ茶碗も、直方市の宝物です。思い返せば16年前に、高取焼開窯400年記念事業が様々な形で実施され、その一環としてのマイ茶碗づくりが今この時まで、続いています。

伝統は、持続・継続されていることを痛感しました。

さらに、昨年の東蓮寺藩誕生記念事業での作陶体験等を実施する中で、先述の10,000個達成は記憶に新しいところです。

伝え続ける活動ができることは、幸せで、かつ貴重な体験とも言えます。6年生のある児童から、「伝える人になります。」という言葉聞きました。感激しました。

おかげさまで、年々、作陶体験に参加される方が増えてきています。



親子で参加の親子焼物教室や、母国を離れ、この直方で生活をされている、外国の方の焼物教室もあります。

小学校では、マイ茶碗づくりですが、その他の焼物教室では、お皿やコーヒークップ等をつくられる方もいます。

素焼き、釉薬掛け、本焼き、窯出しの工程を経て、マイ茶碗は、ようやく子供たちの手へと、届けられます。

卒業前には、思い出づくりにと、お茶会が行われます。日本の伝統文化である茶道に関心がより一層深まることでしょう。

茶碗づくり……この気持ち良い響き。粘土・水・樹本の持つ限らない魅力と特性を生かした400余年前の先人たちの技は、自然との共生につながることを思うと、その知恵に唯々驚嘆するばかりです。

これからも、続けていきます。



日本語教室

「おむすび」焼物教室

〈2024年8月27日(火)〉

場所…直方市中央公民館

以降、感想をいただきましたので少しご紹介いたします。

■今日は大変お世話になりました。外国人の方と一緒に体験できて楽しい時間でした。これからの工程を思うと大変恐縮いたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。できあがりを楽しみにしています。みなさんとお茶会をする日がワクワクです。

■遅れて着きましたが、先生がていねいに教えて下さったのであつという間に出来あがりました。もう少し高くしたかったです。しかし、広がるばかりでつぶれてしまいました。なので、もうは私らしいめずらしいなめものもようにしました。

楽しかったです。出来上がりが楽しみです。

■わたしははじめてつくります。むずかしかったです。たのしかったです。どうもありがとうございます。

ました。

■丁寧で分かりやすい説明で、取りかかってからあつという間でした。手にあまり土がつかず不思議な手触りで、ちよつとした力の加減で、形が変わってしまうところが難しかったです。焼き上がりがとても楽しみで待ち遠しいです。みんなで作成する事で更に楽しさが増しました。

■これは人類初の知恵で、私が作っている間に昔のひとのタイムスリップのような会話があった。最初に成功した人はどんなに喜んでいるのか、彼の成功を喜んでいる人は何人いるのか。うっかり壊してしまったら、音の人は何を考え



ていただろうか。昔の人はどんな困難にぶつかつて、克服してから今の姿があるのだろうか。成功したばかりの作品を手にとんな期待を寄せているのか。☆最後に組織して心を込めて準備してくれた皆さんに誠に感謝します。

■楽しかったです。今度とつくりをつくってみたいです。おちよこもつくりたいです。ちよつとむずかしかったです。

■作れませんと思っていましたけど、楽しかったです。今まで「陶芸」をする事がありませんので、はじめて先生に教えてもらいました。本当にありがとうございます。

■初めて茶碗を作るので、とても楽しかったです。先生の教え方は丁寧で優しく教えてくれました。次の工程に何をすればいいのか考える時にすぐサポートしてくれました。本当にありがたいです。
※楽しかった事・体験できて自分で作った茶碗を焼いて残してくれマス。※難しかった事・丸く作ろうと思っていました、なかなかできませんでした。

■きょう たかとりやきのやりかたをおしえてくれたのでとてもた



のしかったです。
はじめのとき やりかたはむずかしかったです。だんだんおもしろくなりました。せんせいたちがおしえてくれたので ありがとうございます。

■みためはかんたんだとおもったけど、じぶんでつくるときはとてもむずかしかったです。でも、がんばってつくったからできあがりました。でもかたちはなかなかきれいになりませんでした。いいけいけんになりました。せんせいたちほんとうにここからありがとうございました。

ふるさと再発見講座
「高取焼を知ろう」に参加して

榊京子

〈2024年9月8日(日)・10月13日(日)〉
場所…ユメニティのおがた会議室

配られた土を手のひらにのせる
と柔らかく手のひらになじんで、
子供の頃の土遊びの感触を思い出
しました。

何とか茶碗の形に仕上げ少し凹
ませようとしましたがうまくいか
ず周りに縦の線を入れてみました。
どんな茶碗に仕上がるのかとて
も楽しみでした。思ったよりも小
ぶりの茶碗で藁灰と褐色の釉薬が
かけあわさりとても良い具合にな
っていました。手に持ち何度も回
しながらその色を楽しみました。

湯通しをしてお茶をたて、マイ
茶わんで飲むその味は格別でした。
小学校や市民向けに高取焼の茶
碗づくり講座を開催してこられま
した「古高取を伝える会」の皆様
に感謝し、これからも直方の宝で
ある高取焼を伝え続けていただき
たいと思います。

マイ茶わん大切にします。
ありがとうございました。

ふるさと再発見講座

「高取焼を知ろう」に参加して

井手川 睦美

〈2024年9月8日(日)・

10月13日(日)〉

場所…ユメニティのおがた会議室

直方市立図書館では、ふるさとの文化や歴史を学び、今まで気が付かなかったふるさとの良さを再発見してもらおうと、「ふるさと再発見講座」を開催しています。今年度は高取焼をとりあげました。

茶道も縁がなく、直方発祥とはよく聞くものの、実際に高取焼に触れたのははじめてでした。直方の永満寺宅間窯から起こった高取焼が、現在も福岡県内の焼き物に続いているというのが驚きでした。古高取を伝える会の皆さんに優しく手ほどきしていただき、高取焼の特徴の二色の釉薬を掛けてもらい、「高取焼」の茶碗が出来上がりました。粘土に触っているととても気持ちよく、いつまでも触れていたいい気分でした。ありがとうございました。

他の参加者の方も、笑顔で作られているのを見て、講座を企画して良かったと思いました。



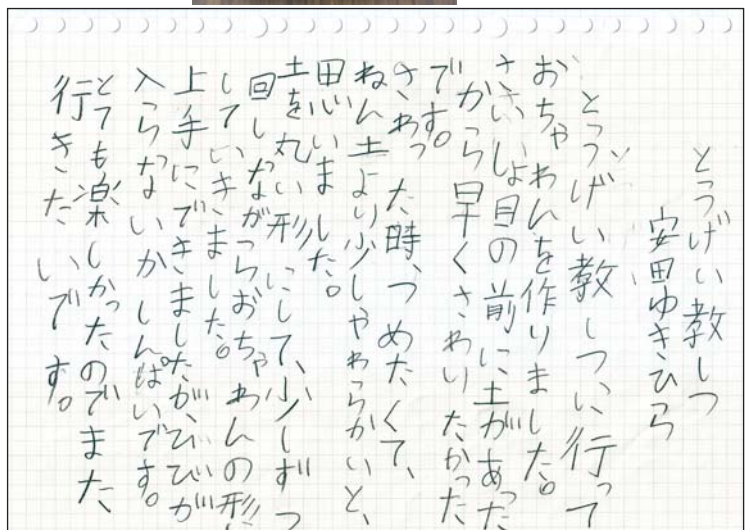
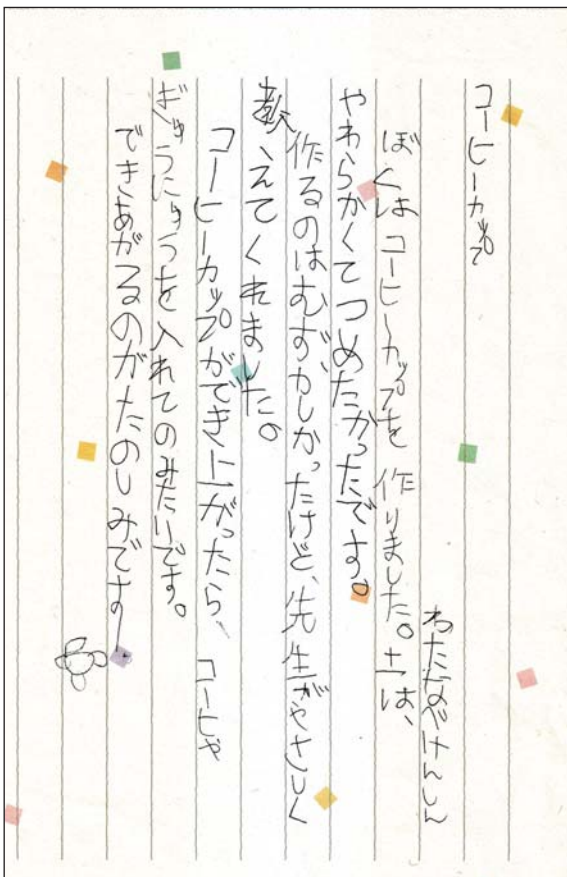
親子焼物教室

高取焼を親子を学ぼう

〈2024年11月16日(土)〉

場所…直方市中央公民館

以降、感想をいただきましたので少しご紹介いたします。



なんでも掲示板

●もととりアジサイ園だより
(金剛山もととり保全協議会)

〈2024年7月〉
場所…金剛山もととり広場

明けまして

おめでとうございます

暑い暑いと言いながら草刈り草取りに頑張ったアジサイ園。真夏の8月から4000本のあじさいの水やりを朝早くからしていたただいたおかげで元気に持ちこたえています。



古高取を伝える会の発足は平成20年。あじさい園の協議会発足は平成22年です。相互に協力しながら共に歩いてきました。

アジサイ園でのマイ茶碗作り、ソーマン流し、栗拾い。多様な行事をこなしていた頃が懐かしいです。

ハイライトはNHKの官兵衛放送の記念行事の5年生の「野焼き体験」。雪がチラチラ舞っていました。よく体力があったなあと思います。

「気力」「体力」「人力」で余り先の事は考えず、毎週土曜日のボランティアを楽しく、元気に続けて行ける様、アジサイ園の神様にお願ひしたいものです。

年明！桜の下にチューリップの球根の植え付けをします。

以前にはありませんでしたが、小動物に球根を掘られたりします。大きな気候変動がこの里でも例外ではありません。共存の気持ちです。

クマが民家のコタツの中に入る時代ですから・・・

●二科展に挑戦！

村上 和正

〈2024年9月7日(土)〉

場所…国立新美術館
(東京都港区六本木)

今年7年ぶりに第108回二科展デザイン部の一般公募に作品を出してみたところ、運良く入選させていただきました。2000年から挑戦し始めて入選は6回目となります。9月7日には表彰式への参加を兼ねて作品が展示されている国立新美術館(港区六本木)まで行って参りました。全国から集まった油絵・彫刻・写真部門の作品も展示されていて、大変刺激



を受けました。ブランクがあったものの、諦めずに続けることの大切さをあらためて感じました。後から全国巡回展に選出されていたことも知り、二重の喜びと共に創作意欲を新たにしました。

●ピアノ演奏とお芝居の集い！

隅田 知明

〈2024年9月23日(月)〉

場所…カフェクロマチック(添田町)

〈2024年10月5日(土)〉

場所…船迫隣保館(鞍手町)

本会理事の村上さんのピアノ演奏「ショパンの調べ」と、私の所属する劇団「やしゃぶし」の現代の狂言「穴」公演を開催しました。

どちらも小さな空間でしたが、添田会場には60名、鞍手会場には40名の参加があつて好感をもって迎えられました。

添田では「添田で見にきたこともが、やつとなパラパラって家で真似してやっていたって」、「70代の女性が死ぬまでに演劇・俳句をしたって、すごく良かった、と感激していました。ちなみにその方お手伝いできること(縫い物など)するよと言っていましたよ」等の感

想が寄せられました。

鞍手では「ピアノ演奏を聴いた男性が、初めてこんなに近くで生の演奏を聴いて、クラシックも良いな！と感激していました。」是非ファンになってください。



更に劇団「やしやぶし」は10月12日～13日京都公演に行ってきました。

京都の会場も定員30名の小さな空間で、3ステージでしたが、3回とも満員御礼で終わることができました。

古都京都で、というので少し緊張しましたが、観客にも助けられて、成功裏に終わることができた。

のではないのでしょうか。

(感想) ～～～～～

上野英信さんの「追われゆく坑夫たち」を読んでいたので「闇の思想」がどのように演じられるかとても興味がありました。

そして始まると、意表を突かれたと思いました。その手があったかと思いました。なんとと言っても狂言なんです。チラシをきちんと読んでいなかったのか、かえって心地よい驚きがありました。その後のストーリーの展開と役者さんの演技がうまくからまって本当に楽しく、かつ、考えさせられる舞台でした。



●晩秋に遊ぶ

「すぐ集う昭和与太の芋煮会」

〈2024年11月19日(土)〉

場所・明元寺(直方市永満寺)

11月19日(土)、当寺で開催されています「ふれあいサロンねこの手食堂」にて初めての芋煮会をしました。フーフーと息を吹きかけながら、秋の収穫を堪能しました。好評につき、来年も行いう予定です。

鷹取宗恵

●明元寺もみじ法要

〈2024年11月24日(日)〉

場所・明元寺(直方市永満寺)

「秋の入り日と年寄り沈むのが早い」

11月24日(日)、今年も「明元寺もみじ法要」を紅葉の浄土庭園で行いました。法要後、理事の村上さんから紹介された武内正一氏と、夫婦デュオであるImage(イメージ)さんの三方での出演でした。軽妙なギターとフルートの演奏の中、行く秋を楽しみました。

鷹取宗恵



● 小学校のお茶会が
新聞に掲載されました

2024年12月4日（水）発行
の西日本新聞に、直方歳時館にて
開催された直方南小学校のお茶会
の話が掲載されましたので、紹
介させていただきます。

「直方の文化学んで」
古高取を伝える会 6年生へ卒業お茶会



高取焼発祥の地、直方市の市民グループ「古高取を伝える会」による小学6年児童への卒業お茶会が11月29日、直方歳時館（同市新町）であった。直方南小の16人が茶道の礼儀作法を体験した。

卒業を控えた6年生へのはなむけと伝統文化継承を目的に毎年実施。1学期には古高取風の焼き物教室も行っている。

この日、伝える会のメンバーが、能登半島地震被災地の伝統工芸品である輪島塗や九谷焼の茶道具を準備。児童にあいさつやお茶のたて方、飲み方の作法を指導した。

会の田中紀子さん（72）は「日本の伝統や職人さんの仕事に理解を深めてもらえればうれしい」。武田成孔さん（72）は「初めての貴重な体験だった。これからも地元の文化を大切にします」と話した。（吉丸寛孝）

慣れない手つきでお茶を楽しむ児童

お知らせ

● お茶会の日程

（小学6年生対象および地域対象）

- 「下境小学校」
〈2025年1月16日（木）〉
場所…下境小学校
- 「植木小学校」
〈2025年1月24日（金）〉
場所…植木小学校
- 「感田小学校」
〈2025年1月31日（金）〉
場所…感田小学校
- 「上頓野小学校」
〈2025年2月10日（月）〉
場所…上頓野小学校
- 「鞍手幼稚園」
〈2025年2月14日（金）〉
場所…鞍手幼稚園
- 「直方東小学校」
〈2025年2月21日（金）〉
場所…直方東小学校
- 「新入小学校」
〈2025年2月26日（水）〉
場所…新入小学校
- 「直方北小学校」
〈2025年2月28日（金）〉
場所…直方北小学校
- 「直方西小学校」
〈2025年2月28日（金）〉
場所…直方西小学校

皆様、ご協力のほど、宜しくお願い致します。

● 高取焼基礎研修講座

「現地視察」

〈2025年3月26日（水）〉

バス見学…伊万里 大川内山（鍋島）
国史跡（佐賀県）

※詳細は、別途、ご案内致します。



子供焼物教室を体験した
感想をお寄せください

マイ茶碗づくりを経験した
最初の子供たちは、もう28歳
になります。茶碗づくりの体験
をどう思っているでしょうか。
茶碗づくりや歴史学習を通
して趣味や関心は広がったで
しょうか等、マイ茶碗を持つ
ている方々の現在の思いをお
知らせください。

〈編集後記〉

今号の表紙は、江戸時代、直
方藩初代藩主・黒田高政や二代
藩主・之勝らの墓塔（供養塔）の
あるお寺（雲心寺）です。

直方の歴史に触れることがで
きる場所のひとつ、お宝です。
これからも地域のお宝を少し
でも紹介して行きたいと思いま
す。

皆様、今後ともどうぞ宜しく
お願い致します。

「古高取通信」会報・NO 40

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

令和7年1月20日

〈現在の会員数〉

正会員 185名（54日）

賛助会員 18名（27日）

団体 1団体（1日）

〈マイ茶碗の数〉

10,678個

〈事務局〉

〒822-0026

福岡県直方市津田町7-14

TEL 0949（23）1311